芭蕉句集 下

芭蕉翁発句集下

秋

物秋や海苔をあまる田の一みとも
きの味や栗ゑの枝の数
文月や六日もまだの雲
荒海や佐渡へよこたふ天の川
名月の木曾路すがらよ星の数

[illegible]の毎七千歩り七夜孔秋七月
[illegible]にて[illegible]ふまする[illegible]万葉の七種を題と
七様乃花の[illegible]や星[illegible]秋
又月[illegible]の夜風を[illegible]にも白[illegible]
銀河の[illegible]をひさして[illegible]も[illegible]を
なつ[illegible]一[illegible]を[illegible]
[illegible]
[illegible]
七夕や秋[illegible]

下一

如[illegible]乃園を[illegible]
[illegible]坂[illegible]
本[illegible]
[illegible]
尼[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

なまじくに宵闇てらし虫の聲
蓑虫の音を聞に来よ草の庵
白髪ぬく枕の下や蟋蟀
　多田の社にて実盛が甲錦の
　切をみて
むざんやな甲の下のきり〴〵す
床に来て鼾に入るや蟋蟀
蟋蟀やゑつきかへし草の人
海士の屋は小海老にまじるいとゞ哉

故様にもあふて秋ある草葉の聲
　寄李下
稲つまを手にとる闇の紙燭哉
ひの雲はいなつまを待たより哉
　或智識の日ごろ禅大師のかたく
　とくやとしおかしくて
いなつまにさとらぬ人の貴さよ
いなつまや海乃面をゑりめ次
稲妻や闇の方行五位の聲

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

稲妻や [illegible]の[illegible]の極

二見乃浦みゝく

[illegible]

[illegible]

畫讃

[illegible]

[illegible]の露

[illegible]

[illegible]

[illegible]

開ゆる白雲遠く山に消ぬ
みかんまてるを
雪しらかい至とうくあ白うかりうな
牛部屋に牧のあるつるに跡見れ
ひやしくしを絞をふまへくこ手振る
ある事ふいさふこきく
秋すくしまら毎よむ者や妙り茄子
金昌寺にとまる聖の寺ちこ事下
ほとあきを信仕家視をかえて

遠ちる杉中一庭の柳花菱ちれて
庭掃くや出て寺下ちる柳
和角(カ)蓼螢句
幕下りわまてる絞ふ杉の
事麻ふ信て庭上の杉をるに
凡千日もへるれん大さ牛を
うくを〜ちをへくんかき牧ちつを
仏殿よひうまて今行社霧をまあ
うる花華あて事ふ

僧あさかほいく死かへる法乃松

　嵐雪か画しに讃を望まれて

朝顔ハ下手のかくさへあはれなり

　挨ある人に扇にかきてつかはしける

　ことばをそへて

朝白は酒もりしらぬさかりかな

　閉関の比なり

朝かほや昼ハ錠おろす門乃垣

蕣や是もまた我の友ならず

朝顔の花に帰ゆく蚊のよそり

萩はらや一夜ハやとせ山乃犬

枕ひきよせて寐たるに一間隔て面わかき

女の聲二人ばかりときこゆ年老たる

男乃声も交て物語するをきけハ越

後の国新潟と云所の遊女成し伊勢

参宮するとて此関まて男の送りて

来れるとそ

一家に遊女もねたり萩と月

小杉[illegible]

[illegible]や小杉ふく萩すき

新形[illegible]雨中詩會

ぬまとく切一人もおりや百の萩

畫像

白[illegible]もおほさぬ萩のう[illegible]れ

義[illegible]席[illegible]の事に[illegible]

きとく

風色やしーとろに極し遊の殿

[illegible]や小貝に[illegible]萩の多

萩の種や形をつの毛[illegible]生門

深川庵

芭蕉[illegible]盥に[illegible]

[illegible]一[illegible]

西徳

[illegible]に苦蕉やきあく

[illegible]や女に花

玉川の水おほまとをとへ

てゝゝゝゝゝゝゝる女ゐゐゐゐゐ君ゐゐ農匂を
よゝゝゝて白き絡切ゝゝゝゝ
蘭乃ゝゝゝ蝶のつゝゝゝゝ薫ゝゝ沢
寂ちゐて
門ゐ入ハ恋後ゝ出家の匂ひゝの邪
本寺塚のゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
人ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

夕影や秋ゝゝゝ色ゝゝゝ孤ゝの邪

服前

道のゝゝゝ木槿ゝ馬ゝ吟ゝゝゝゝ
花むゝゝゝゝはゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ面醫師細川ゝゝ庵ゝゝ
藥園ゝゝ八つゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝ稲の香ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
むゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

三月や鳥の夕をつかむらん

行事の見えて江戸似合ふ百ヶ月

三日月や地を撫でうり若麦の芽

嵐蘭の墓に詣て

人しれぬ墓の七日の墓参り乃月

涼しさや江戸みちまでも孔山の月

俳諧仕始め月侯の心を寄しく

杜牧の早行の詩を小夜中山にうつ

くまもまもるく

るる庵くの茶の夕ふく

月もやしく木すまも雨を待ふう

明かのや二十七夜も三日月

月乃ひかりに酒をまんとの玉祭り

都の人名かくれくもかくれも

さらさらと小田ひも加まぬ無りけ

精霊玉祭の仏せ陶を不ふく

江乃中み蔵絵書くし百年ヶ月

文科山ち八幡ちの里ち雲ち

横をれて冷くこるをかと
くまもなかりしかたちを思ひいでぬる
ぬるさ山のすそかすかなるあけぼの
いとうらんもとりに立まそひて我ろに
出て行ふ人に行くを人を捨て
らんと思ふとこそ思ふなれ

仲や遠方とうかく月ぞ友

善光寺

自彫仏曰門戸中宗ゑ一ツ

悼遠海を看法印

ゑ法縄を相思ふ人を法乃月

月乃ゑゑ雨ゑ一お撲ゑゑ事

燈り山

義仲の森ゑ形山ゑ月山

湯屋跡

月山名をつゑかひてやいもう神

新宮の神ゑ和ゑ義仲ゑ往ゑ墨ゑ二ゑ

上人ゑゑゑ名を為ひ沼湾をゑゑ

[illegible]

月清し遊もりのりて船乃うへ

[illegible]

月いつこ清水さいめる海乃底

戸をひらきて西の山あり伊勢とよ

花ちるもよろこびもうす

世のまゝに月も半ばに伊吹山

又去る妻のめるのまあやうにたゝらを

[illegible]百向守の妻髪を切て席をまる也

[illegible]

月さびよ[illegible]

[illegible]の[illegible]書乃けるまゝ[illegible]

西秀亭初會

月代や[illegible]

[illegible]入よ清水堂

[illegible]

よし[illegible]

柴の戸の月やそのまゝ阿弥陀坊

不卜之[illegible]道

橋桁のしのぶは月の名残かな

明月のよそほひにとて芭蕉五本を植て

芭蕉葉を柱にかけん庵の月

深川の末五本松といふ所に船をさして

川上とこの川下や月の友

東順老人湖上に生れて東野に

終をとれり

入月の跡は机の四隅かな

月下に児を送るといふ題ありて

月すむや狐こはがる児の供

見る影やまだ片なりも宵月夜

月見せよ玉江の芦をからぬ先

武蔵守泰時仁愛を先とし政[illegible]

欲先と行ひ

明月出るや　五十一句條

名月や池をめぐりて居まはる

拾年ぶりの隠宅をまねく人をもてなす

深貴と金をしむ

寺に住てまこと小説あるの月つれ

ぶ〻しく人を休むる月つれ〻

雲仙て人〻てらんとして月つれ〻

清水の橋をうつる俗よあさつゆ

清かの橋をうつる俗よあさつゆ

古寺の月

ひるむしりや月見乃旅のゆき影

名月や小田の白和さゝ色と

古寺の月

名月や望てつき影も和

名月や見まをる堂乃縁

名月や湖水一向へと七小町

名月や二つ者くも物あの月

名月や門よさゝ〻ら清うら

[illegible]花[illegible]孫[illegible]を
[illegible]鹿の[illegible]や 田[illegible]
[illegible]の[illegible]郡
[illegible]門[illegible]今日の月
[illegible]の月乃[illegible]
[illegible]郡の月も十六里
[illegible]ちの[illegible]の月
十[illegible]郡の郡[illegible]
[illegible]月乃雲

望田[illegible]
[illegible]海を[illegible]程乃[illegible]の園
[illegible]の[illegible]
[illegible]
三十日[illegible]を抱く嵐
芋の葉[illegible]月[illegible]里の[illegible]屋
雲行谷[illegible]鹿[illegible]流あり[illegible]女[illegible]の芋
芋洗ふ女[illegible]雨[illegible]の[illegible]

千葉新らに庵を結びて

粟稗にまづしくもあらず艸の庵

知足斎今夫新宅を賀す

ともし火や雀とまらぬ小戸の霜

来る春や新嫁の萩の手遠く

節分や所の来る附紀前し

同人庵牧寿を祝ひて

菊植て千代本新あらし　於

積や命をかゝむ　菊ゝ津る

遊女畫賛

枝ぬり新月あしくかなしき英蕎が

勇西乃雲を芙蓉孔てる寒ご高

何となく小家に秋の柳かな

秋海棠西瓜の色に咲にけり

鬼灯を実も葉もからも紅葉哉

美婦き戒坊丹一握をかりて

猿すく我に関をとるや坊うつま

猿引き猿の小袖をきぬる哉

小枝見送る事を別る事を
拙き事を扇に引けば金波の郭
相の事を新帰かる堀の月
雲に月乃今やとあるを帰郭
望田にて
廣原に拙き事を旅雁の
稲すを見る業の本畑や迎変
刈る秋や夕稲ふるの野の琴
き乃春に成ることを待て四十雀

板の裏ちる接ぎの羽音や鶏あり
月よ切る雲や高ふ乃ふる雪
ひいと帰ふ乃ふる雪一秋の庵
接ヤ夕月の初もし出る駒むろへ
言葉の使ふ乃ふを
無火乃の庵や法の下むを
牧ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃郭
吹ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃野乃ふ
江上の破屋を乃ふ乃ふ乃ふ乃ふ乃

野さらしを心に風のしむ身かな

富士川を通るに三ツばかりの捨子の泣あり

猿を聞く人すて子に秋の風いかに

いふての常盤か塚あり伊勢の守武

か云ける義朝殿に似たる秋風とハ

いつれの所か似たりけん我も又

義朝の心に似たり秋の風

秋風や藪もはたけも不破の関

身にしみて大根からし秋の風

一笑追善

塚もうごけ我泣声ハ秋の風

あかゝと日ハつれなくも秋のかせ

那谷寺ハ奇石さま〳〵に古松植な

らへて殊勝の土地なり

石山の石より白し あきのかせ

桃夭の名を付く

桃の木乃其の葉ちらすな秋の風

秋風や伊勢の墓原猶すこし

[illegible]石計路　人の紅をつくる形を
　　乙う長を紅葉かなれ

[illegible]のいへも[illegible]　秋老風
　　去年の[illegible]より伊勢の紅り出[illegible]
　　[illegible]我の[illegible]
西東あそ[illegible]　同じ[illegible]
　　嵐蘭を悼
秋風や[illegible]　紅葉の杖
入麸の下焼[illegible]

旅窓長夜
九月廿七日　七ツ[illegible]
　　車庸亭二句
秋の夜を[illegible]
おもしろき秋の[illegible]
　　大和の国井の[illegible]
[illegible]や[illegible]
　　菊花の候
秋を[illegible]

菊屋乃雨

起よる菊ほのゝ折り水の跡
きやく咲け九月廿三日　切くの会

菊池の五郎中菊を来きたれ
就山の富をひきさきたれ酒乃
あまの水をすゝめ給ふ
とゝ折を作四人の年経るまやう和
らんるまを
いさよひ乃いつまとう今年ゆく菊

山中温泉

山市や菊ゝ折あ汐の匂ひ

木因亭

かゝ菊ゝや月とく菊ゝに田之反
種折ゝ月りなり和菊ゝ折ゝ
九月廿九日三物を出ゝ会八
菊ゝ戸や月とて折て菊の酒
只ゝのあまゝや世ゝ乃怪ゝ菊
田ゝ折ゝやり

[illegible]

大門通をうりてゝ

琴音や古物店乃軒戸の菊

行末は疏の[illegible]

[illegible]

帷子をとく酢をとゝの菊の鈴木

伐山水[illegible]

新[illegible]や菊の[illegible]

八町堀にて

[illegible]や石屋の石多し 同

花[illegible]男乃心[illegible]山家集

乃[illegible]

一露もこぼさぬ菊や水の[illegible]

菊[illegible]や庭[illegible]履の[illegible]

[illegible]の[illegible]

菊乃香や[illegible]

同作

[illegible]

生玉うり見をしてとく
菊の花とく京良経波を雪月花
園女家歌仙
白菊社員千とくとる草も用
後醍醐帝の陵を拝む
御廟を拝て志のあらを何を思ふ
本雪社掾ふ世乃人生ふ生涯
如水別墅
義経居とく本の実ものこ拾ふや

秋風のいとゝまさ〳〵栗のいろ
可休亭ノ会
祖父ゝ親社の子ゝ遠国拝ゝん
屋敷実ゝ
里ふるゝく拝乃木もゝ家ゝ
出雲拝や一ひらゝふ桂乃ゝ
菊乃家落ゝく拾へハぬゝゝれ
草ゝゝや雨ふゝ中ゝ〳〵
松草やゝゝ程を松乃形

[illegible]

松茸やしらぬ木ぬしのへそ行

伊勢ぢ従る山路をこゆるとて

[illegible]

中秋の月をよめる　神の里姥捨山より

[illegible]

[illegible]月十三夜

[illegible]

住吉の市ゆき

[illegible]

秋もなかばをすぎつる月見うの郎

内裏にてをさをさまりてかえの近衛

[illegible]

[illegible]皆　押合あ御　遷官

[illegible]

[illegible]

秋風や相手うしなひて芋茎

見るもせつなき御堂ちらんとして浮世の秋

蜻蛉せつなくなりてはたをさす古い

留守

送るまつ送りつ果てまつの秋

種の濃き遠ふ

ちりもせぬよりよかりしなり浜要秋

少年木沢相宮異り

秋ちりてやすまるを小松川

旅懐

世秋を何とも思ふ雲ゆく

旅の空遠き雲を行をする人を

憶老杜

風雅をなして芋秋欲するを詩をを

武蔵野を出し一時聖をし成

心を思ひて藤ちらんを

死もを藤葉のちるよ秋悲しれ

枯枝よりかをを九月晩乃書

[illegible]

[illegible]

あちこちをあるきたるに

所思

山道や小人形に小秋蚕の

人家や山乃佛ゐあきの夕べ

清水寺の茶屋にて

杉風乃新たを見こうく妹背哉

行秋や身をしぼりてまつ三布蒲

七月六日ふる雨ふる迄ふる夜あけ

蛤売あるみ手わの形り秋哉

行燈の影くらやまつ蚕桂

ゆくあきをひろまきる栗のいろ

[illegible]

桐葉のめ心さし深くうきたれ
[illegible]

世間の[illegible]を[illegible]
[illegible]

江戸をたち出ると
[illegible]人とわの名ぼまん 初 附句

一尾根をしるべ雲[illegible]
山路へ井[illegible]
初しぐれ[illegible]
いつくさまを[illegible]

草庵

人くをしるれよ[illegible]
附句や田のあ[illegible]
[illegible]田の駅[illegible]
[illegible]して名をなのる種[illegible]

[illegible]一時句乃大井河
[illegible]人も[illegible]
新菜の出そめて早きしるべ哉
[illegible]
俤り本社遊をいとあるまを礼る
人の方へもとめてゆく
初しられ初乃字とわの時句う雑
一[illegible]や浮く小石川
[illegible]月もいとる雲乃吟

[illegible]
金屏の松社古ひやみそ雪
賜酒並湖水の波を這ひる田螺
芦乃の[illegible]
[illegible]馬中[illegible]
[illegible]津や田螺の如くまとまり里
[illegible]
先祝へ梅をこそ乃ノ如白隈
千川亭

おもく伊吹をりんくや冬紅葉
尊王の為にあまてる神の御霊ふり

霜月のはじめ涼川の書斎に入りて

故ある神の忌講の日数くらす
清新講や沖のやまの酒の外
菊鶏冠きりとほし名の新講
蝿子講 酔漢て裳着にふり
如月霊の石衣ありとふ講

文溪亭口切乃日

口切て堺乃庭そなかりし紀
炉ひらきや老友老母く鬢乳霜
本つくし緋男きかは而似るかな

牛畫讃

あらしや行よつくまて寺のまぬ
風や頼をれとくむ 人恭 萩

冬到 風来書

本製風子尖頃くくの窓秋の夜

同新城菱沼棒志稿

京にてあきらく世事をうしなひ信濃
角殿様現をあらはす
文人よわの名をたちて義経川
三尺乃山もあらはれ本の無事なる
平田明聖なる本三教をうけ法師
なるべし 二句
百年共京色を遊乃義経の紅
葉やうつる 洞やうそんちる紅葉
道園居士の美名きくゆ久しき

まことにあらんかを契つて孫うり
世のひをまことに初めて二歩の雪く
ちるあらしをもの一ちらにあつる
ふかをもの
そ乃うくもちんそ枯木此枝の老
熱田みなつ社領大はやき墓地
ちまきまきくまむにくる
志のふさく枯くく解うふやうう小
雪の後芽をやふく

花ゝれ枯ゝれ麦を蒔ける農夫

三枝を折て茶碗小鉢に八重咲

門人百ゝに来りていとゝ問へ八ゝへ

結ぶ

山もこゝろもちてや吉野枯尾花

十月八日梅中吟

病ゝ中病ゝく蕎麦枯葉をかけめぐる

刈株や扨よまれぬ蕎麦の茎

英流耕雪別墅

本のゝしに白ひやつ寺ゆり花

ゝゝ蕎麦 粉糠の如く弓の白のゝゝ

熟田梅人亭茗荷の岡を思ひきて

水仙や白き清ゝ乃ゝもうつり

ゝゝの白ゝゝゝゝゝ二人ゝ

桃先桃後ゝ名を対あゝゝ

桃の匂ひ桃ゝゝ白し水仙

菊乃後大根枯れ残れ

鞍掛丹小坊主乃ゝ大根引

玄扉子掘者を菜根を喫し、
武士乃大根ふくき嚼う那
冬の手孤子今釣る小さう哉

防川亭

寒鉄撑る梅の蕾ふる新堤多
梅椿子笑ちめん　保美の里
折りて送入撑まう先接
芹焼やすう海乃田舟の寄氷
杜國ゥ庵を尋ぬ　二句

表ちちくよ紀うこまを曲むう
けまちちて寒まて紀まを和の宮
分見山の公毎猶て帰て忘書し

病中

菜のむさてを和の枕う那
葛北蒸の物ちてんをうて和の和

源川大搭成跳り時

みちちやいく踏をし北和
かくと打ふ凄し弁乃翁

[illegible]
初雪やさいたく高てあるる
山中よりあるきて遊ひて
[illegible]
南都にまく
初ゆきや[illegible]の大仏乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
初雪や扨かるまるに[illegible]へ

[illegible]
[illegible]
[illegible]
市人よりて見うらん雪の[illegible]
[illegible]
馬をとる人[illegible]
[illegible]
中[illegible]
[illegible]

雪と雪人今雪自師走共名月哉

深川八幡宮社中

年四五十雪乃儀や投乃巾

當友人雪之良

君ゆくけとき物うんきん雪丸き

閑居の歳　おまの

酒乃めとくく摘くまねおの雪

時雨の歌本陣業言亭に為り

ちゝ小孫ち并猪章の君都と為

そとゝ降て行くに弱りうるもて

京まくくちまくまゝ中雪や雪共雲

鶴田の文沛沛震ちゝめ

磨雪を清し清し雪悪き孔

去年の日ひ雪をおもひ知ちゝ

越人ち為る

二人只一雪雪あくし水降ちゝ

雪ちゝ雪稲屋の蔭のか星共

いさゝらは雪ちん雪ちゝふ雪ちゝ

きのふ音に往人をきん世をさくやう
まて花の後志賀の里にゆくまゝし
とめりいま大津松本あるり名月と
以花の餘はる移てかゝる所と
かゝり出ゝるつゐたくおもしろかれと
かね乃花乃をかしや志賀の雪

湖水眺望

比良三上雪さしわたせ鷺の橋
つゐにゆくむ鳥岩雪乃朝の面

小町画讃

花さそふ雪のぬる白衣着ても笠
雪とけて栗まくむ住居の面

弁乃讃

御をとこ雪まつ川氷のはしおゝ

富士山画讃

庭掃て雪をわするゝ箒かな

自画自讃

いさ子ともはしりありかん玉霰

いの為へいきをやとせ乃 拾ひ生
臨所の草庵を人く訪ひたれ
雲なせよ網代の氷魚著て出たん
雑炊り蹲踞なるく射のあ〻き氷
おく〻ろ一重をやなきんみそれ 雨
雁さかく為る羽田面や寒の白
かり鍾を市地乃痩も寒の中
月花の面よ計こそん寒乃人
櫓を波を手く賜ふる拾を網

茅舎買水
汐苦く偃蓋の網をうる泊を手
すくくしりやる上手氷る新法海
親波く拾ふ水を惜を見こう分
こもを焚く拾ふ拭あふる寒う那
越人と吉田の郊にて
寒ゝ乃二人格寒を半ばのき
仙化ゝ父乃退居
袖のゝとよゝ水く寒く濯袴つ

[illegible]鯛の歯[illegible]魚の棚
[illegible]白く洗ひたてる[illegible]
[illegible]紀[illegible]柱さむき入江
[illegible]
[illegible]一つ[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]世を[illegible]
[illegible]後[illegible]

[illegible]年[illegible]
埋[illegible]
曲[illegible]
[illegible]
[illegible]九の後
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]の浦より[illegible]寺を
[illegible]の日
[illegible]崎の間を[illegible]西崎[illegible]
[illegible]を[illegible]
[illegible]牡丹[illegible]
伊[illegible]の海乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]八牧
[illegible]

[illegible]一ツ[illegible]
生[illegible]一ツ[illegible]る生海[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]七里[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]八[illegible]

節季作を出ふ出さうな
ふれふれふ解をもつ魂の使ふれ
ふるもこ二月に迫し餅乃書
煤掃やうたれり吉のうる新
張霞ふくふ世乃煤掃拂
行脚の五器一具鞦韆は所在
ふをを師て路通をうたを
ふれ世乃煤ふ拂ふめ古盒子
猿行

煤掃ふ移の本乃宮社嵐う郭
すふきを己ら棚つる大工弁
月白や師走の路ふ霜ふる
何ふ此世を市より戻
かふ生ふ師走の海のふつふ
ふ市踏ふ寅に出ふや 松
ふ忘ふうふ年乃淀ふん
洛御雲別當景桃九異行
ふ月ふ年を友ふや ふ月ふ秋

[illegible]
人を家を買ひて[illegible]年[illegible]
奥島は心ハ[illegible]わすれ
[illegible]うれて[illegible]
[illegible]年[illegible]の書
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]ふ

[illegible]人の[illegible]老の書
月[illegible]年[illegible]春
[illegible]里や脇の[illegible]
[illegible]人[illegible]の書
[illegible]乃生る甲[illegible]
[illegible]年乃[illegible]

雜

[illegible]冊の[illegible]を[illegible]て

世[illegible]も文字[illegible]の[illegible]

[illegible]人圖

月花の[illegible]や[illegible]あるし[illegible]

[illegible]て杖突坂引上

[illegible]

[illegible]杖つき坂を[illegible]

[illegible]の時[illegible]

[illegible]湯屋[illegible]杖[illegible]

酒の[illegible]人乃[illegible]

月花もなくて酒のむひとり和

[illegible]浮[illegible]

海[illegible]面や[illegible]なるべき所者

布袋の強[illegible]

物[illegible]や袋の中乃月と毒

寛政元歳酉七月再版

洛陽蕉門書林　井筒屋庄兵衛
　　櫨屋　治兵衛

下　折九

蝶夢子書述目録

芭蕉翁發句集 二冊	去來丈艸發句集 二冊	同　懷中小本 二冊	名所小鏡　三冊	類題發句集 五冊
蕉門俳諧語源 二冊	芭蕉翁文集 二冊	松島道之記 一冊	同　俳諧集　三冊	新類題發句集 五冊

文政新刻
藤白名源發句集三冊

辨当〻〻集 一冊	宰府紀行 一冊
芭蕉翁絵詞伝二巻	吉野の名所紀 一冊
裏表紙紀 一冊	遠江乃紀 一冊

蕉門書林 寺町通二条下ル
橘屋治兵衛版行

北条氏康

素山

藏本

宮内庁書陵部